

# 宮古島市 南島の環境共生住宅

## 宮古島市概要

- 位置 : 北東から南西へ弓状に連なる琉球弧のほぼ中間にあって、沖縄本島(那覇)の南西方約290kmの位置にあり、台北よりやや南に位置する。
- 地勢 : 最も高い地点でも113mの低い台地状を呈している。大きな河川なく、生活用水等のほとんどを地下水に頼っている。地層は隆起サンゴ礁を母岩とする琉球石灰岩からなる。
- 気候 : 宮古島地方は、高温多湿な亜熱帯海洋性気候に属し、四季をとおして暖かい気候であり、年平均気温の平年値は23.3℃、年平均湿度の平均値は79%である。1～2月がもっとも寒く、同月の最低気温の平均値は15～16℃である。5月上旬頃から6月下旬までは梅雨で、この期間に年降水量(平年値2019.3mm)のおよそ20%が降っている。梅雨が明けると本格的な夏になり、9月頃まで真夏日が連日続く。夏秋季は、台風シーズンで特に9月頃強い台風が襲来する傾向にある。10月頃になると朝夕しのぎやすくなり、例年、この頃、宮古島の秋の風物詩であるサシバの群が東南アジアで冬を越すための中継地として本土から飛来している。

## 宮古島市南島型環境共生住宅

- ・居住者が住みこなして初めて住まいになると言われるように、居住者が住みつつ、自分の意志やアイデアで手を加えながら、進化、成長できる南島型環境共生住宅造りを目指す。
- ・そのためには、気候風土に根ざした住みこなしのいい住まいの骨格づくりを提案する。
- ・南島の気候風土が育んできた開放的な暮らしを継続できるよう計画する。(開放的な暮らしを実現するためには個室よりも家族共用のスペースをできるだけ広げ、伝統的住まいの空間秩序である「プライバシーのグラデーション」で現代の住まいに開放性を試みる。)
- ・住生活の安心を第一に、耐台風のシェルター性能を充実する。
- ・その一方で、日常生活の求めるアメニティ性は、木目細かく工夫をする。
- ・気象データでも示されているように、多湿であることが招くいわゆる夏場の結露トラブルを解決する。
- ・多湿な夏場にあっても、8月頃台風の北上に伴い、北の方から乾燥した風が吹いてくるので北側にも開口部を設け、南側の開口部と併せて、家の呼吸を促す。その時、床レベルから乾燥するよう開口部に工夫をする。
- ・日射遮蔽の工夫をする。
- ・住まいの内外の環境負荷低減のためには、緑や雨水を積極的に活用する。
- ・ストック型住まい造りを目指し、メンテナンスのしやすい方法をモノづくりから日常生活行為まで反映ができる設計とする。又、スケルトンインフィル住宅の手法がローコスト、ローテックで実現できるように十分に工夫する。

